

一般会計、3つの特別会計及び4つの企業会計、合わせて8会計の「令和5年度決算の概要」がまとまりましたので、発表いたします。

詳細につきましては、のちほど、財政部長から説明しますので、私からは総括的なところと、財政健全化指標についてお話をさせていただきます。

はじめに、一般会計の決算では、歳入歳出の差引に繰越財源を確保した実質収支が、約12億2千万円となり、前年度に比べ、3億7千万円ほどの減となりました。

次に、特別・企業会計の決算では、新型コロナウイルスの影響は限定的となりましたが、一方で、物価高騰の影響などを受けまして、企業会計において単年度資金収支は赤字となったものの、累積資金収支はプラスを維持しております。

次に、財政健全化指標の数値について、速報値ですが、

「経常収支比率」が、89.4%、

「実質公債費比率」が、7.7%、

「将来負担比率」が、71.3%、

「公債費比率」が、10.7% となり、財政運営持続化計画で定める目標管理ラインを下回り、健全性は確保されている結果となっております。

長引く物価高騰などの社会経済情勢の変動や、人口減少・少子高齢化など様々な課題がある中で、財政基盤のさらなる強化にむけて、今後もしっかりとした財政運営をしてまいりたいと考えております。

なお、正式な比率は、監査委員の審査を経て、9月定例会に報告をさせていただく予定でございますので、よろしくお願いいたします。

詳細につきましては、担当部長から説明させていただきます。

【財政部長】

「令和５年度決算の概要」について説明いたします。

資料の２ページは、一般会計と特別会計の決算概要です。

一般会計の決算は、歳入歳出差引に繰越財源を確保した実質収支で、

令和４年度決算に比べて、３億７，３５４万７千円少ない、

１２億２，１７１万５千円となりました。

この実質収支約１２億２，０００万円の要因ですが、

収入で、地方交付税などが予算額より上振れたこと、

支出で、国の補助金を活用した新型コロナウイルスに対応するための事業や物価・エネルギー価格高騰対策事業のほか、扶助費が予算額を下回ったことなどによるものでございます。

また、使途についてですが、

令和６年度の当初予算の計上分の１億円と、

扶助費などの執行残に伴う国庫支出金等返還金で約２億円は、すでに確定しておりますが、

これらに加えて、令和６年度の補正予算の財源や、翌年度当初予算の財源対策などへ活用したいと考えてございます。

次に、一般会計の歳出規模は、前年度に比べ、約６１億円の増となっております。

その主なものは、

扶助費が増加したほか、市民ホール建設、学校の増改築、市営住宅建設などの公共施設に関連する費用が増加したことによるものでございます。

次に４ページの市税の状況をお願いいたします。

市税収入の総額は ２８８億７，１５７万７千円で、

昨年度に比べ ６，４６７万３千円、【０．２％】の増となっております。

その主なものは、

個人市民税 １．６％ １億３，１８８万５千円の増

固定資産税の家屋で ２．０％ １億１，６４１万７千円の増

固定資産税の償却資産で ４．７％ ２億３，３８９万９千円の減などでご

ざいます。

次に、収納率でございますが、

現年度分について、昨年度と同じで99.4%、

全体では96.8%で、昨年より0.1ポイントの減少となりました。

道内主要10都市では、現年度分で第4位となっております。

2ページに戻っていただき、特別会計の実質収支をご説明いたします。

国民健康保険事業会計は、536万7千円、

介護保険事業会計は、2億9,922万1千円、

後期高齢者医療会計は、8,287万1千円 となっております。

次に、3ページ、企業会計でございますが、

水道事業会計は、

単年度資金収支、3,274万2千円のマイナス、

累積資金収支額、17億7,675万1千円、

下水道事業会計は、

単年度資金収支、8,197万7千円のマイナス、

累積資金収支額、15億3,875万9千円、

市立病院事業会計は、

単年度資金収支、4億1,501万2千円のマイナス、

累積資金収支額、20億9,508万1千円、

公設地方卸売市場事業会計は、

単年度資金収支、1,106万8千円のマイナス、

累積資金収支額、3億6,590万8千円となっております。

最後に、6ページをお願いします。一般会計の市債残高及び基金等残高の推移でございます。

上段は、一般会計の市債残高の推移でございますが、

平成8年度に547億円だった市債の残高は、平成11年度の751億円をピークに減少しますが、平成24年度から増加し、今年度の現時点での見込みでは、臨財債を含め877億円となっております。

下段は、基金残高等の推移でございますが、

折れ線グラフは、基金全体の推移を示しており、平成8年度に119億円あ

ったものが、その後の財政状況より減り続け、平成20年度には22億円と最も低くなりました。

平成25年度には新たに公共施設整備基金を設置するなど、令和5年度末の残高は183億円となりましたが、令和6年度当初予算の財源対策などの取り崩しにより、現時点で159億円の残高見込みとなっております。

下の棒グラフは、財政調整基金や減債基金などの主な基金等の推移で、いわゆる市の貯金の推移を示しております。

以上で、各会計の決算概要の説明とさせていただきます。以上、簡単ではございますが、補正予算の説明を終わらせていただきます。

【副市長】

説明は以上でございます。ご質問があれば、お受けいたします。